

シン学校プロジェクト基本方針（案）に寄せられた意見と市の考え方

- 募集期間：令和6年2月1日～令和6年3月1日
- 提出件数：46件（提出者15人）

このたびは、シン学校プロジェクト基本方針に対するご意見を提出いただき、ありがとうございました。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
第1章 シン学校プロジェクトとは？			
1	1-2 狙い	まず学区の住民が主導で取り組むことも大切ですが、今後は現場の教職員の意見も必要だと思いますが、今後のプロジェクトの進め方はどの様に考えているのですか。	児童、保護者、教員、地域の方々もシン学校プロジェクトに応募いただけます。
2		複合化、グループ単位での学習、一貫校、学区再編など新しいことが次々提案されるが、児童、保護者、教員、地域の人々に論議できる場は検討されているでしょうか。性急に結論が出るような問題ではないと思います。	
3		意見集約の場(地域で話し合う場)に参加できるよう公募、あるいは広報して誰でもが参加できるようにしていただきたい。	
4		プロジェクト推進⇒市役所と地域の意見交換を丁寧に⇒地域からの意見・要望に対して、市の丁寧な回答を（シン学校プロジェクトの理念を尊重した前向きな回答を）	引き続き丁寧に回答していきます。
5		多様な学びの機会をつくるためには、学校のハード面の充実と合わせて、教員の定数増も市としても追求してください。	教員の定数につきましては、国の動向を注視していきたいと考えております。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
第2章 市の考え			
6	2-1 学校のあり方	重要なのはむしろ教育内容のソフト面であり、それをサポートするようなハードは何か、という観点で検討していただきたいと考えます。せっかく2-1にて一宮市教育大綱を掲げているのですから、どんなソフト及びハードを準備して教育大綱のどの項目への寄与を狙うのかをマッピングし整理していただきたいと思ます。	ソフトとハードは切り離せないと考えておりますので、ソフト面の充実のためのハード面の検討という考え方が重要と認識しております。
7		小学校の余裕教室をオープン化～余裕教室を活用して新しい学びに対応した学習環境をつくる～本来は改築して教室横にオープンスペースが広がる空間があるのが理想ですが、長寿命化改修でも、余裕教室を活用すれば、教育の質の改善は可能と考えます。一斉授業一辺倒から脱し、自ら自由に移動して学び合う授業に転換しています。新時代を担う子供達のために、また明日行きたい学校となるよう、魅力的な学校づくりを進めていただきたいです。	多様な教育ニーズに対応できる柔軟で機能的な施設整備に取り組んでまいります。また、長寿命化改修においても検討していきます。
8		・防災拠点としての学校づくり ①地震・洪水発生時、避難所機能が確保できる学校施設 ②避難所機能の向上 ・安心・安全の学校づくり ①学校設備改善…不審者侵入の抑止、緊急事態への対応、耐震 補強の強化、安全性の向上	防災の機能の強化等についても検討する必要があると考えております。
9		・コミュニティ拠点としての学校づくり ①学校教育機能と社会教育機能の連携…学校敷地内に社会教育機能の併設 ②世代間交流の場の設置…地域コミュニティ広場の設置	地域コミュニティの拠点としての学校づくりについても検討する必要があると考えております。
10		一宮市でも新たな学びの場を多様に提供できる取り組みが必要です。このプロジェクトにも求められると思います。子どもたちが自己の可能性を充分のばすことが出来る環境整備とスタッフの充実こそをシン学校プロジェクトの柱にしていくことが大切です。まず実態の把握からはじめてください。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
11	2-1 学校のあり方	トイレも男子女子に限らず、性別に関係なく利用できるもの、プライバシーに配慮したものにしてください。男子トイレの個室化も必要です。低学年の子であっても安心して着替えができるスペースを確保するなど、プライバシーを尊重できる施設であってほしいと思います。	基本方針P.6に記載のとおり柔軟で創造的な学習空間について検討してまいります。
12		学校施設全体を学びの場として捉え、多様な児童生徒へのきめ細やかな対応ができる環境整備を、ぜひ実施してください。教育施設としての役割に加え、児童生徒の放課後の居場所、生涯学習や文化、スポーツなどの活動で利用する地域コミュニティの拠点、災害時の避難所などの役割も求められており、コミュニティとしての充実を望みます。	基本方針P.6に記載のとおり安全・安心な教育環境についても検討してまいります。
13	2-3 適正規模	大規模校の弊害は一部指摘されていますが、多様な生徒にゆきとどいた教育を行うには、適正な規模の学校と少人数のクラス、ゆとりある教員の配置が不可欠だと思います。その解消を具体的に検討してください。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
14	2-4 適正配置	私は神山小と中部中の2校の北側の校舎を3階建てから4階建てに建て替えを提案します。今後も神山連区の生徒数は大きく減少しないと予測しています。 神山小と中部中の場所を交換します。そうすれば、南から末広小・中部中・神山小となり、通学の距離が等しくなり、受け入れキャパも多くなるはずで。	具体的な提案については、対象校の募集の段階でお示しください。
15		千秋小学校、千秋中学校の小中一貫校（以下「千秋校」）の設置を行い千秋南小学校、千秋東小学校を千秋校に統合。千秋校の分校として千秋南分校、千秋東分校、千秋中分校を設置。千秋校の場所は千秋町の中心部である千秋小学校及びその近辺を想定	具体的な提案については、対象校の募集の段階でお示しください。
16		単純に統廃合は、辞めてください。住民の意見をよく聞いてください。卒業した母校が、なくなるのは、さびしいです。	統廃合を検討するとなった場合は、地域住民の皆様との合意形成を図りながら進めてまいります。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
17	2-4 適正配置	教育的な評価が定まっていない小中一貫は導入すべきではないと思います。	基本方針P.10に記載のとおり義務教育期間9年間の連続性等を十分に考慮して検討いたします。
18		小中一貫校の導入には慎重な姿勢でのぞんでいただきたい。	
第3章 市の学校等の現状			
19	3-1 連区別人口動態	連区の動態で減少傾向を危惧するなら、計画的に街並みが作られそれに対応する形で学校を配置できたかどうかを考え配置を修正すべきであると思う。通学距離は一宮駅周辺の中心市街地や旧尾西中心地はオーバースクールだと感じる。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
20	3-4 児童生徒数の推移	人口の推移動向について、2015年と2060年で比較しているが、2060年を基準にした理由は何ですか。	「一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期）」における推計結果を基にしています。
第4章 学校をとりまく潮流			
21	4-1 統廃合	一人一人の子どもたちの個性を生かし教職員と子どもたちの触れ合いや個別指導を充実させるためにも、国がすすめる学校統廃合の方向ではなく、子どもたちを大切に、教職員が働きやすい学校にする方向で進めて欲しいです。	基本方針P9に記載のとおり全市的なバランスや地域の実情を考慮して検討いたします。
22	4-1 複合化	学校の統廃合より複合化によって地域コミュニティとして充実し、複合化で拠点とした方が望ましいです。児童の通学距離が適正範囲となること、複合型により地域で子どもと高齢者の交流で、人にやさしい安心した一宮になると思います。	複合化については応募頂いた方のご提案を踏まえて検討してまいります。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
23	4-1複合化	小学校の数を減らすことなく、そこに地域の住民が集まりやすい施設(公民館、地城住民集会室、児童館、老人会館などを併設した施設)を建設していただくことを希望します。	複合化については応募頂いた方のご提案を踏まえて検討してまいります。
24		小学校、中学校、保育園、病児保育を含む一体運営を行う新しい形態の教育施設としてほしい。	
25		今ある学校の新設か改築と公民館や図書館や体育館や給食施設や学童施設等の併設がよいと思います。	
26		今、学校を存続させる中で、「さらに進んで、教育だけに特化することなく、保育園の合築や、地域に開かれた公民館や体育館としての機能を学校敷地内に集約していくという考え方もあります。」という考え方を活用して各地域、各学校の特色を生かした建て直し計画を立てて「シン学校プロジェクト」を検討していただきたい。	
27		公民館は公民館で地域住民にとって、大切なものです。合同で使う場合、学校が最優先となる可能性も考えられます。地域住民が遠慮しながら施設を使うようなことにならないようにしていただきたいと思います。	

No.	項目	意見の概要	市の考え方
28	4-1 民間活力の活用	PFIは早々に失敗した事例も少なからずあり、コスト削減という目的が果たせられるかどうかは全く不透明です。ですから、地方経済振興のために大企業が担うPFI手法は止めてください。	様々な事業手法の中から最適な方法を導入するために、PFI手法などによる民間活力の活用も選択肢としております。
29		民間活力を導入する方向性が可能性として打ち出されています。民間企業を活用しようとするのは大きな問題点があります。	
30		民間活力の活用ですが、学校の建設・管理を民間業者に委託する手法（PFI）により保護者・地域が置き去りにされ統廃合が進められる場合もあります。子どもたちの為の保育園・学校等は自治体が責任をもって管理し守っていくべきです。	
31		民間活力の活用には反対します。教育は公が責任持たなければならない分野でPFIなどなじまないからです。	
32		PFI手法の一括発注、長期契約は、一宮市の持続可能な循環型経済につながりません。地域の頭脳・技術の活用、市職員のマネジメント経験の蓄積こそが、市の発展には必要と考えます。民間活力を活用できているが、民間活力は大手企業となっており、地域の企業の活力活用となっていません。説明のPFI手法は、止めてください。	
33	4-1 小規模特認校制度	小規模特認校制度は、問題点があるので止めるべきだと考えます。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
34		「（４）小規模特認校制度を活用」した特色のある学校設置は、低学年の全面発達を阻むと考えます。児童生徒一人ひとりの人格を認めるならば、保護者や社会の学力競争に巻き込むことは、危険です。	

No.	項目	意見の概要	市の考え方
35	4-1 その他 (プール)	中学校はクラブ活動があるため既存のプールは逐次改修を行い維持していくが小学校は温水プール利用に集約をする。移動時間やバス移動のコスト・安全面、夏休み期間の開放といったデメリットがありますが、既存プールの維持管理の低減、温水プール利用による天候に左右されない授業の実施・授業期間の中を広げられるといったメリットがあると思います。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
36	4-1 その他 (学校給食)	共同調理場方式より単独調理方式の方が良い点がたくさんあるので、尾西・木曽川地区は単独調理場方式を絶対に止めないでください。	学校給食については、現在、一宮地区は共同調理場方式ですが、尾西・木曽川地区は、単独調理場方式です。今後、尾西・木曽川地区の学校給食調理場を更新する際に採用すべき、給食調理及び提供の方式は、令和6年2月13日開催の定例教育委員会において、共同調理場で調理した給食を学校へ配送して提供する方式を基本とすることに決定しています。
37		学校給食について、尾西・木曽川地区について共同調理方式に移行を検討していると記載されていますが、自校方式の調理方式の優位性は既に明白であります。共同調理方式への移行は全くの愚策であり、多大な税金の無駄使いとなります。検討を中止してください。	
38		尾西・木曽川地区の学校給食単独調理場方式は、今後も絶対に守っていくべきです。	
39		「今後は、尾西・木曽川地区についても共同調理場方式に移行することを検討しています」とあり、驚きました。こういうことを地域住民に説明せずに決めてしまうことに不満をおぼえます。(一宮市に合併の時に教育条件について話し合われなかったのでしょうか) 自校方式から、センター方式に変えることは、大きな転換です。尾西地区と合同の説明会の開催を求めます。	
40		今ある学校給食の自校方式は優れており共同調理場方式には反対です。	

No.	項目	意見の概要	市の考え方
41	4-1 その他 (学校給食)	災害時を考慮すると、学校給食を単独調理場方式で実施しておれば、災害時に活用できます。学校ごとに給食調理室の整備は必須と考えます。	学校給食については、現在、一宮地区は共同調理場方式ですが、尾西・木曽川地区は、単独調理場方式です。今後、尾西・木曽川地区の学校給食調理場を更新する際に採用すべき、給食調理及び提供の方式は、令和6年2月13日開催の定例教育委員会において、共同調理場で調理した給食を学校へ配送して提供する方式を基本とすることに決定しています。
42	4-2 先進事例	事例については一宮市と同等かそれに近い財政指数(予算)の行政の現実的な事例は参考に出来ると思う。なお補助金が交付されるなら加味すればよろしいかと思います。	先進事例を研究し、国の補助金を積極的に活用できるよう努めてまいります。
43	その他 (クラス人数)	学級数を上げているが1クラスの人数を課題としていないことは問題ではないか。子供に寄り添うためには、少人数学級を追求しそのうえで、規模を検討してほしい。	頂いたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
44		予算の配分は、1学級20人の生徒数の実現を優先し、校舎の補強、建て替えをどうするか考えてほしい。	
45		新しい学校を作るさいには、今の1クラスの児童生徒の定数ではなく、少人数学級実施も視野に入れて必要な教室数を確保してください。	
46		30人クラスでゆとりのある教室にしてください。	